

雄勝地区



幼年消防クラブ結成!

10月22日(木)、雄勝・大須の両保育所で、幼年消防クラブの結成式がありました。

消防の法被(ほっぴ)を着た両保育所の園児全員で「お家の人、地域の人と一緒に火の用心を心掛け、火遊びを絶対にしないことを誓います」と元気に誓いました。

また、雄勝保育所クラブは、11月9日(日)、雄勝消防団が主催した同地区商店街での防火パレードに参加し、地域住民に火の用心を呼び掛けました。かわいい呼び掛けは、沿道の方々の心に届いたようです。

河北地区

自熱! 鮭のつかみどり大会!

10月25日(土)・28日(火)・11月2日(日)、「フエステイバル・イン・かほく2008」が、メディアアシップステージ・ビッグバンを会場に開催されました。

26日(日)に行われた産業まつりは、毎年好評の鮭のつかみどり大会のほかビッグ大会、つきたてのもちを振る舞つもちつき大会・地場産品の試食販売コーナーでにぎわいを見せていました。また、文化祭では、各文化団体によるステージ披露や力作ぞろいの手編みや七宝焼の作品展が行われ、訪れた方々は、河北の食と芸術・文化の秋を堪能していました。



桃生地区



桃生地区文化祭

11月1日(土)・2日(日)、毎年恒例の桃生公民館と桃生文化協会主催による桃生地区文化祭が、桃生公民館を会場に行われました。

当日は、協会員や一般の方々の作品(絵画・陶芸・手芸・俳句・書道・ちぎり絵・押し花・菊花など)の展示や実演・販売などが行われました。2日間、家族連れなど約700人の来場者でにぎわい、出品された作品を見たり実演に参加したりと、「文化・芸術」を満喫していました。

河南地区

かなん市民まつり

秋晴れとなった11月1日(日)、遊楽館をメイン会場に「第18回かなん市民まつり」が開催されました。

無料開放されたパークゴルフ場と屋内プールは大変にぎわい、恒例となった旭山ウォーキングには約200人の参加者がありました。

屋内のホールでは、北村大沢楽隊や広瀬小の子ども達による鹿嶋はやしなどが披露されました。また、屋外でも河南産の新米や野菜の直売、フリーマーケットや大道芸など盛りだくさんの内容で、1万人を超える来場者は、さわやかな秋の一日を過ごしました。



牡鹿地区



11月11日(火)、鮎川浜清崎山の市有林内において、「笑りの里山創生事業」

将来の世代へつなぐ緑のたすき

が実施されました。

この事業は近年、里山の荒廃問題が深刻化していることから、地域住民の手で美り豊かな里山を創生し、維持する場を提供することで、自然に触れ、自然を保護する意識をばくむことを目的として実施されました。

当日は、鮎川小学校の子ども達とその保護者約100人が、森林組合の職員から技術指導を受けながら、熱心に植樹作業を行っていました。数年後に採取される果実などは、子ども達が自由に食することが出来るとあって、成長を期待する眼差しで見つめていました。

まちの話

北上地区

10月26日(日)、第11回にっこりまつりが、にっこりサンパークを会場に開催されました。開会セレモニーで、かわいい保育所園児による踊りが披露されたあと、盛大にもちまきが行われました。ステージでは文化協会による芸能祭や山口瑠美さん(歌手)の芸能ショーなどが行われました。

会場には、タイタニックスライダーやフワフワドームが出現し子ども達は大喜びでした。地場産品の即売コーナーやバーベキューは家族連れに人気で、終日にぎわっていました。また、別会場となった北上公民館



ホールでは、各愛好会の作品展示や盆栽なども展示されました。

楽しくおどろおどろの秋!

石巻地区



『木の香り』が大好きです

11月4日(火)、総合福祉会館みなと荘において、木工講座が開催されました。この講座は、「老人の生きがいと創造の事業」の中で行われているもので、当日は、14人の受講者が参加しました。

教室内には、心地良い木の香りが漂い、「日曜木工の延長のような感覚で参加しています」と話していた受講生の皆さんは、機械や工具を慣れた手つきで使いこなし、思い思いの作品を手掛けていました。また、ボランティアで、市内の朽ちた案内板を新しくするなど、趣味の領域を超えた幅広い活動も行っていました。

『すくすく元気体操』で介護予防

10月25日(土)、石巻文化センターで『石巻市介護フェア』が開催され、「介護予防体操」が行われました。

健康運動指導士の齋藤央美さんが、自宅で簡単にできる体操の一つの「すくすく元気体操」を紹介しました。これは、高齢者の転倒予防や筋力の維持に効果があるもので、参加者は、ゆったりとした音楽に合わせて身体を動かしていました。

参加した女性は家で手軽にできる体操がないかなと思っていたので、ちょうどよい機会になりました。毎日続けていきたいです」と話していました。

